

## 分類研究分科会

代表者：藤倉 恵一（文教大学）

会員数：7名（正会員5名，個人会員2名）

会 員：川上 勝慎（獨協大学） 鈴木 学（日本女子大学）

藤倉 恵一（文教大学） 以上正会員

上條 庸子（女子栄養大学） 吉澤 由美子（清泉女子大学）  
以上正 ML 会員

小林 美佐（昭和女子大学） 田中 環（文化学園大学）  
以上個人 ML 会員

年会費：なし

例会開催回数：11回（合宿1回含む）

延べ参加者数：53名

研究分科会ホームページ URL：<http://www.jaspul.org/pre/e-kenkyu/bunrui/>

## 活動

### 1) 基本テーマ

件名，シソーラス，Indexing 理論等を含んだ“トータル”な意味での図書館分類法とその理論に関する研究を基本テーマとする。

今期は，過去2期の研究を継承し，現在日本図書館協会分類委員会で編纂中の「日本十進分類法（NDC）」新訂10版の試案について検証と評価，および必要な提言をすることをメインテーマとし，「その分類、大丈夫ですか？」とする。また，そのために必要な理論的基盤の研究についても並行して行う。

### 2) 活動の概要

分類研究分科会は2年間で(1) 研究テーマに沿った文献の精読を通じて参加会員の基礎レベルを整える，(2) 主たる研究テーマの研究・検証を行う，(3) 研究成果の発表および総括 の3つの期間に分けて活動する。

2012年度は第1期から第2期，2013年度は第2期から第3期の活動を行う。

#### 2. 1) 第1期 分類表の解説の理論的基盤を知る

第1期の活動として，NDC 原編者もり・きよしによる NDC の公式解説書といえる「NDC 入門」（1982年）を精読した（2012年5月～2012年10月）。これは NDC 新訂8版に準拠したものだが，過去に刊行された「NDC のつかい方」（1966年，新訂7版準拠）の記述と比較しつつ，その内容の精度や有用性などを中心に検討した。

- ・ もり・きよし編「NDC 入門」日本図書館協会，1982，178p.（図書館員選書，2）
- ・ 森清編「NDC のつかい方」日本図書館協会，1966，127p.（図書館の仕事，9）

さらに第1期の延長としてデューイ十進分類法（Dewey Decimal Classification：DDC）本体に付属している Glossary（用語解説）の翻訳と精読を行った（2012年11月～2013年2月）。上記 NDC 解説書には NDC と分類の基本的な用語解説がそれぞれ付録として収録されていたが，NDC 本体には付属していない。DDC 用語解説を検討することで，NDC 解説に足りない要素を検討することを目的とした。

また、前掲の NDC 解説書 2 種と DDC に加え、以下の各分類関係図書に付された用語解説を参照しながら、NDC に必要とされる用語とその定義を考察した（2013 年 3 月）。

- ・ ジャック・ミルズ [ほか] 著；田窪直規 [ほか] 訳「資料分類法の基礎理論」日外アソシエーツ, 1997, 309p.
- ・ 丸山昭二郎, 岡田靖, 渋谷嘉彦著「主題組織法概論：情報社会の分類/件名」紀伊國屋書店, 1986, viii, 224p.
- ・ 丸山昭二郎, 丸山泰通編「図書分類の記号変換：DDC, LCC, NDC」丸善, 1984, xii, 222p.
- ・ L. M. チャン著；上田修一 [ほか] 訳「目録と分類」勁草書房, 1987, vii, 418p.
- ・ ロベルト・フーグマン著；荒木啓介 [ほか] 訳「インデクシングによる情報内容の明示：その原理と実際」情報科学技術協会, 2000, vi, 237p.

## 2. 2) 夏期研究合宿

夏期研究合宿は、第 1 期に関連して「図書分類の基礎と歴史を把握する」をテーマとして以下の文献の精読を行った。

- ・ 衛藤利夫「圖書分類ノ論理的原則」間宮商店, 1926, x, 79p. (図書館研究叢書, 第 2 篇)
  - ・ E. C. Richardson ; 加藤宗厚訳「分類法ノ理論及實際」圖研究. 1(1), p.14-63, 1928
  - ・ 高田定吉『「日本十進分類法」を評す」圖書館研究. 9(1), p.2-8, 1932
  - ・ 彌吉光長「日本十進分類法を打診す」圖書館研究. 9(1), p.9-13, 1932
  - ・ 波多野賢一「日本十進分類法を批判す」圖書館研究. 9(1), p.14-16, 1932
  - ・ と・たまみ「日本十進分類法の考察」圖書館研究. 9(1), p.17-24, 1932
  - ・ 高橋生「日本十進分類法一私見」圖書館研究. 9(1), p.25-27, 1932
- (参考資料)「N.D.C.ニ對スル最近ノ諸批評ニ就イテ」圖研究. 6(1), p.137-138, 1933

前 2 者は NDC 成立に影響を与えた国内・国外の基本文献であり、当時の国内の分類研究の水準を知る文献である。

後者は NDC 刊行後に芸艸会の雑誌で組まれた特集で、当時どのように NDC が評されていたかを考察した（特にこの特集は NDC に批判的な姿勢の記事ばかりを集めた）。

また、このテーマにあわせ合宿冒頭に TP&D フォーラム 2012 で行った研究発表「日本十進分類法の将来像：NDC 温故知新」（後述）を再演した。

## 2. 3) 会場記録

|                       |                     |
|-----------------------|---------------------|
| 2012 年 4 月 24 日 (火)   | 文教大学 (越谷)           |
| 5 月 11 日 (金)          | 獨協大学                |
| 6 月 15 日 (金)          | 日本女子大学 (西生田)        |
| 7 月 20 日 (金)          | 清泉女子大学              |
| 9 月 5 日 (水) ~ 7 日 (金) | ホテル ラヴィエ川良 (静岡県伊東市) |
| 9 月 21 日 (金)          | 女子栄養大学 (坂戸)         |
| 10 月 12 日 (金)         | 獨協大学                |
| 11 月 12 日 (月)         | 文教大学 (越谷)           |
| 12 月 21 日 (金)         | 日本女子大学 (目白)         |

|                     |                     |
|---------------------|---------------------|
| 2013 年 2 月 13 日 (水) | 東京家政大学 (板橋)         |
| 3 月 8 日 (金)         | ワーカーズ倶楽部 神田・大手町 (※) |

※ 正会員数の減少による各所属校の負担および所属校間の距離を勘案し、2013 年以降は貸会議室等も使用していくこととする。

## 資料

### 1) 刊行物

特にない。

### 2) 事業

#### ア. TP&D フォーラム 2012 (第 22 回整理技術・情報管理等研究集会) の共催

1991 年に日本図書館研究会整理技術研究グループ (現・情報組織化研究グループ) により始められた TP&D フォーラムは, 第 2 回から分類研究分科会が共催者となり運営に参画してきた。2012 年度は京都で開催され, 分科会からは藤倉・上條・小林の 3 名が出席した。

フォーラムの参加者は教員, 図書館員, データベース業者などさまざまであり, これに分科会が参加・関与することの利点は(1) 主題組織分野における最新の研究動向の把握, (2) 分野を同じくする教員や研究者との交流, (3) この分野の研究基盤継承への貢献 であるといえる。

今回のフォーラムでは, 会員から藤倉が「日本十進分類法の将来像: NDC 温故知新」と題し, NDC の成立過程と 10 版改訂の進捗について研究発表を行った。この内容については近日刊行される『TP&D フォーラムシリーズ (整理技術・情報管理等研究論集)』XXII に論文「日本十進分類法の史的研究: 黎明期 (1928-1949)」として掲載予定である。

なお, 2013 年度は 8 月 23・24 日に横浜にて開催される予定である。

#### イ. 日本図書館協会分類委員会への参画

2007 年度より, 分類研究分科会を代表して藤倉が NDC の編纂に携わっている。これによって, 分類研究分科会での研究成果を多少なりとも NDC の編纂に役立てることができるとし, 逆に最新の動向を分科会に持ち帰ることができる。

なお, 第 2 期の活動の中心となる NDC 試案に対する批評については, 編纂者としての立場とは直接無関係な活動として実施・公表する予定である。

(文責・藤倉恵一)